

漫才のツッコミに関する一考察

榎谷知行

1. はじめに

日本の伝統芸能である漫才¹は、2人の演者²が、舞台上に立っているマイクの前に立ち、面白い会話を繰り広げることによって、聴衆を笑わせることを目的とする話芸である。テレビや劇場などで気軽に鑑賞することができる大衆芸能であり、漫才用語のボケ、ツッコミは、一般的にもよく知られている。

漫才に関する従来の言語学的研究は、おかしいと思われる部分のみ、すなわち、ボケのみを考察したものが多い。ボケに後続して現れるツッコミを考察したものは現在までほとんど見られない。

本稿の目的は、漫才におけるツッコミの機能を明らかにすることにある。調査方法として、安部(2004)の「おかしみの構造図」と、フリ、ボケ、ツッコミの各定義を使用する。

2. 先行研究

本章では、本稿が調査方法を参考にした安部(2004)を2.1.で紹介し、次に、ツッコミに関する先行研究を2.2.で述べる。

2.1. 安部(2004)

安部(2004)の目的は、実際におかしいと思われるボケの先行部分に存在する、フリの機能を考察することにあつた。以下では、その研究方法と考察結果に関して述べる。

考察に用いられた漫才の資料を一部抜粋要約したものを《付録 1》として別紙に記載した。なお、囲み線の部分はスジフリを表しており、これに関しては2.1.2. 考察結果の章において述べる。

2.1.1. 方法

2.1.1.1. 「おかしみの構造図」の提案

漫才に関する従来の言語学的研究の方法は、笑いの発生をズレとする考えを根底にしている。まず、その考えを提唱しているショーペンハウアー(1975: 192)の箇所を抜粋し、以下に示す。

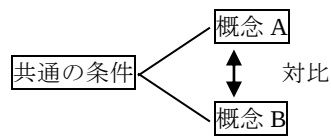
¹ 相羽(2001: 64-74)によると、漫才は、その芸風によって、「音曲漫才」、「踊り漫才」、「しぐさ漫才」、「しゃべくり漫才」の4種類に上位区分され、形態や内容によって下位区分すると、計10種類にもなる。本稿でいう「漫才」とは、しゃべりを芸風とする「しゃべくり漫才」を指すことを断っておく。

² 3人以上の演者による漫才も存在するが、本稿では2人の演者によるものに限定する。

笑いが生じるのはいつでも、ある概念と、なんらかの点でこの概念を通じて考えられていた実在の客観との間に、とつぜんに不一致が知覚されるためにほかならず、笑いそのものがまさにこの不一致の表現なのである。

安部(2004)も、笑いの発生を不一致、すなわち、ズレとするこの考えに基づき、2つの概念の関係に着目することにより、「おかしみの構造図」を提案した。以下は、安部(2004: 104-5)からの抜粋である。

「異なる二項の概念の対比」を有し、その対比が「異質である」と理解主体が判断した場合にのみ、そこに「おかしみ」を感じる、というわけである。したがって、ひとつの文脈にまったく別のふたつの概念が存立している現象、ここにおかしみを感じさせる可能性があるといえる。(略)



これを「おかしみの構造図」と呼ぶことにする。

2.1.1.2. 「おかしみの構造図」における、フリ、ボケ、ツッコミの各定義

安部(2004: 109)からの抜粋（抜粋箇所はコロンの以下）を交えて以下に示す。

フリの定義：ボケの先行部分でおかしみを効果的に伝達する言語操作

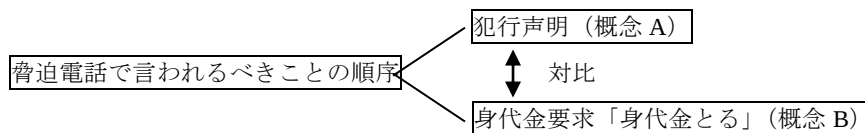
ボケの定義：おかしみの構造図を完成させる表現

ツッコミの定義：ボケの後続部分でおかしみを効果的に伝達する言語操作

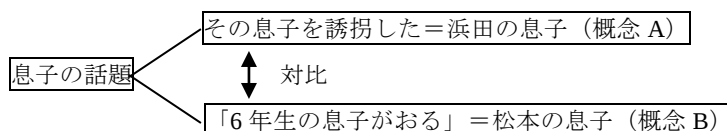
2.1.1.3. 「おかしみの構造図」の用例収集

安部(2004)は、上記の定義に従って、漫才資料から「おかしみの構造図」の用例を収集した。《付録 1》には、以下の(a)から(c)までの用例が見られる。それぞれの用例は、安部(2004: 112,114,110)からの抜粋である。

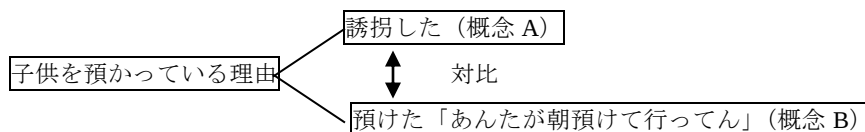
(a)05 松本～10 浜田



(b)13 松本～16 浜田



(c)17 松本～22 浜田



2.1.2. 考察結果

2.1.2.1. フリの種類

以下は、安部(2004: 115)からの抜粋を一部要約したものである。

フリには、何について話題を展開するのかという大きな話題提供をするスジフリと、ある話題についてその内容を深化するという話題提供であるマエフリの2種類がある。

2.1.2.2. スジフリの働き

以下は、安部(2004: 112)からの抜粋を一部要約したものである。

スジフリは、フレームを活性化させることで、「おかしみの構造図」の諸要素を設定、又は導出する働きがある。フレームとは、複数の概念が構造を持って結び付けられている、とする理論（マーヴィン(1990)において提唱）であり、たとえば、「家」フレームといえば、戸、窓、台所、居間、風呂などであり、「レストランでの出来事」フレームといえば、席への案内、メニューの選択、注文、食事、会計などが想定される。

資料における 01 松本から 04 浜田までは、そのようなスジフリの例であり、ここで活性化されるのは、「誘拐犯の脅迫電話」フレームである。このスジフリによって、「犯行声明」「身代金要求」「受け渡し方法」「受け渡し場所」「子供の生存確認」「逆探知」などが後に来るべき話題として仕組まれている。また、その前提として「誘拐犯」フレーム、つまり、「自分の名前を明かさない」「居場所を教えない」「自分の話はしない」「高額な金品を要求」なども活性化される。表現主体としては、これら暗示的に文脈に含意される概念を、利用しない手はない。

用例の(a)は、そのスジフリによって活性化された「誘拐犯の脅迫電話」フレームの中の「脅迫電話の手順」によるものである。

「おかしみの構造図」において、概念 A と共通の条件を設定する機能を果たしている。

2.1.2.3. マエフリの働き

マエフリには、次に来るべき発話の内容を、ある程度具体的に予測させたり制限させたりする働きがある。

用例の(b)において、その働きが説明できる。13 松本「お前とこになあ、小学校 2 年生の息子おるやろ」によって、次の発話内容は「その息子を誘拐した」といったものが来ると、聴衆には推測される。それを利用して、15 松本「うちには 6 年生がおるんや」が「おかしみの構造図」を完成させている。

この場合も、「おかしみの構造図」において、概念 A と共通の条件を設定する機能を果たしている。

2.1.2.4. 「おかしみの構造図」におけるフリの機能

「おかしみの構造図」の用例(a)から(c)において、フリには、概念 A を設定する、概念 A と B に共通の条件を設定する、という機能が見られる。

2.1.2.5. フリが存在しない場合の代替

安部(2004: 116)において、「「おかしみ」を感じさせる表現が、先行部分が存在しない場合（言語化されていない場合）は、我々が「常識」としている概念が、「フリ」としての機能を果たしていると考えることができる。」と述べられているように、フリが存在しない場合は、常識的な概念によって、「おかしみの構造図」の共通の条件や概念 A が設定される。

2.2. ツッコミに関する先行研究

ツッコミに関する具体的な考察は、筆者が調べたところ一つも見当たらなかった。ボケに関する研究、漫才自体に関する考察の中で、簡単に触れられている程度である。以下は、木村(2003: 99)からの抜粋である。

違和感を生む表現に言及が加えられる時、「やかましあほ」のように、その表現がずれを含むものであることを指摘する表現や、(ビタミンCを含む食材として「シーボルト」をあげたことに対し)「シーボルト長崎の医者まで食べんのか」のように、どの点でずれているのかを定めながら指摘する表現(略)も現れる。

木村(2003)では、ボケ、ツッコミの用語は用いられていない。冒頭の「違和感を生む表現」とは、つまり、ボケのことであり、それに「言及が加えられる」とは、つまり、ツッコミが入るときのことであろう。木村(2003: 99)では、これ以上のことは示していない。安部(2004: 109)において、ツッコミは「ボケの後続部分でおかしみを効果的に伝達する言語操作」と定義されていた。それをふまえると、ツッコミは、ボケを指摘するという形で、「おかしみの構造図」の完成を聴衆に伝達しているのではないかと考えられる。

3. 調査

3.1. 資料

筆者は、2003 年 12 月 28 日にテレビ朝日系列全局で生放送された若手漫才師のコンテストの番組「オートバックス M-1 (エムワン) グランプリ 2003」をビデオ録画した。その中で披露された 12 の漫才演目のうち、フットボールアワーというコンビ(岩尾・後藤)による「結婚記者会見」の漫才を文字化したものを資料とする。資料選定の理由としては、他の 11 の漫才と比較して、動作や表情といった非言語行動が少ない点、強弱や速度など発話の表現方法に頼っていない点など、言語面での考察が可能であることがあげられる。この漫才の演目時間は 4 分 29 秒であった。ちなみに、生放送であったため、編集や削除などは一切加えられていない。漫才資料は、《付録 2》として別紙に載せた。

3.2. 調査方法

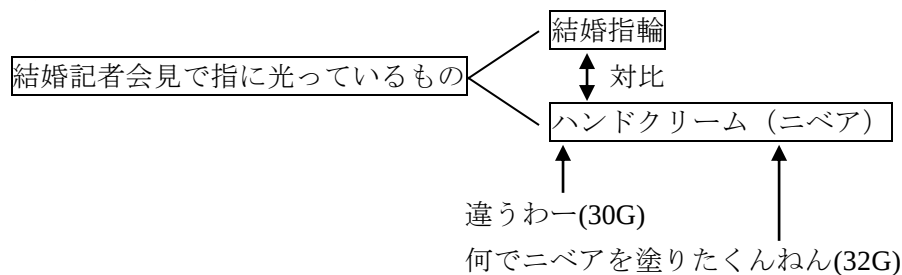
安部(2004)の「おかしみの構造図」(2.1.1.1.参照)と、それにおける、フリ、ボケ、ツッコミの各定義(2.1.1.2.参照)を使用する。定義に従って、資料から「おかしみの構造図」の用例を収集し、ツッコミの機能を考察する。

4. 考察

4.1. 概念 B のたしなめ

資料から、「おかしみの構造図」の用例が 13 例得られた。「おかしみの構造図」において、矢印を用いてツッコミの発話を概念 B に向けるとよくわかるように、ツッコミは、用例全てにおいて、概念 B に対するたしなめを行っている。概念 B をたしなめするという形で、「おかしみの構造図」を伝達していることが立証された。なお、「おかしみの構造図」の用例一覧は、《付録 3》として別紙に載せた。

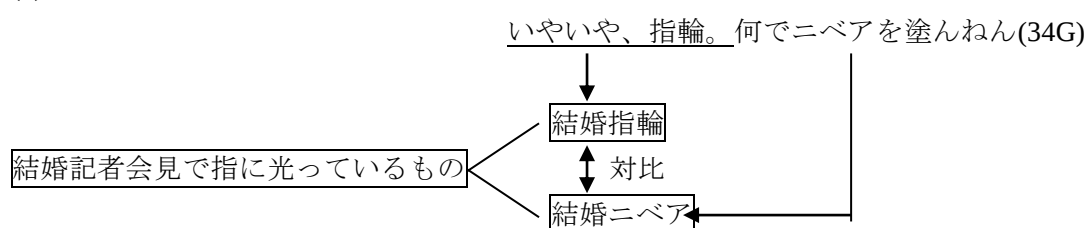
(2)27I~32G



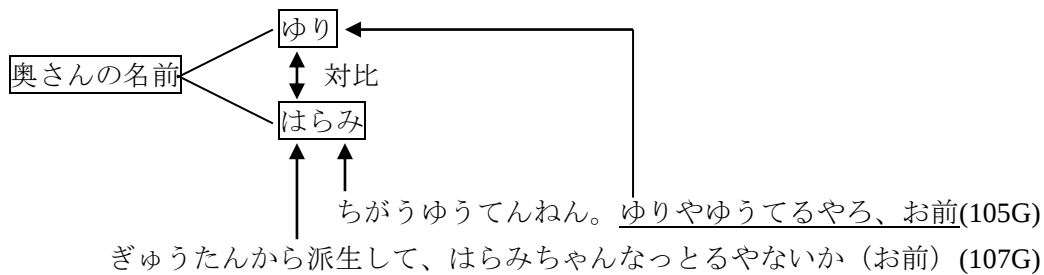
4.2. 概念 A への言及

13 の用例中、(3)と(9)において、概念 B のたしなめとともに、すでに設定されている概念 A にもう一度言及しているツッコミが見られた。概念 A に言及するツッコミには下線を付した。概念 B をたしなめ、さらに概念 A に再び言及して、双方の対比を明確にすることで、「おかしみの構造図」を効果的に伝達していることが考えられる。

(3)33I、34G



(9)104I~107G



4.3. 例外

ボケの定義（「おかしみの構造図」を完成させる表現）に反する例外の用例が2例見られた。フリが存在しない用例で、概念Aの設定は常識的概念に委ねられる。だが、この2例の用例においては、常識的概念による概念Aの設定は難しいと思われる。

<例外1>

57I のボケでは、「おかしみの構造図」は完成されない。

49I 質問の方よろしいですか？

50G (いや) いいですよー

51I まずはですね

52G はいはい

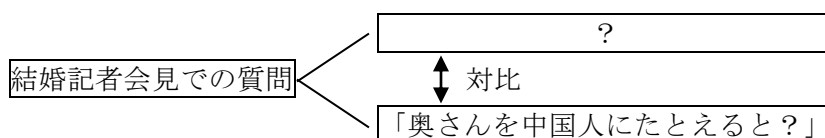
53I 奥さんとはどこでお知り合いになったんですか？

54G =あ、これはですね、友人の紹介で知り合まして (ね)

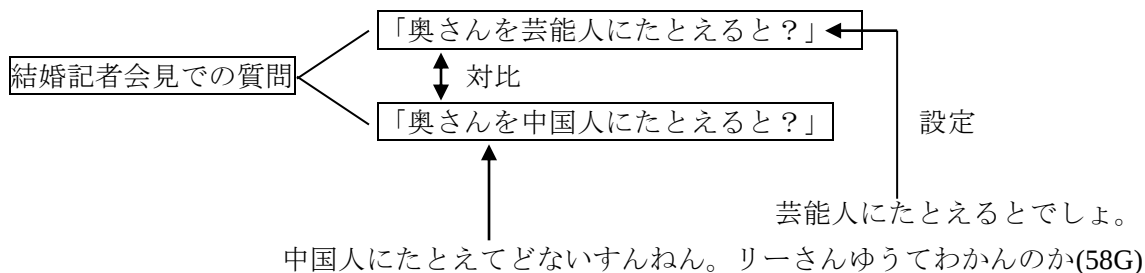
55I ご友人の紹介で

56G はいはいはい

57I 奥さんを中国人にたとえると？



だが、後続する 58G のツッコミ「芸能人にたとえてでしょ」によって、概念Aが設定され、それによってはじめて「おかしみの構造図」が完成する。さらに、「中国人にたとえてどないすんねん。リーさんゆうてわかんのか」によって、概念Bのたしなめが行われ、「おかしみの構造図」が伝達されている。



<例外 2>

152I、154I、156I のボケでは、「おかしみの構造図」は完成されない。

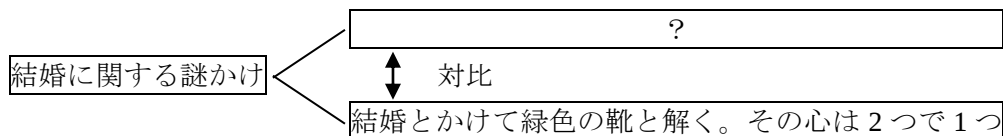
152I 結婚とかけましてー

153G おー、なかなか根性ある。ほな、聞かしてもらおう。結婚とかけましてー

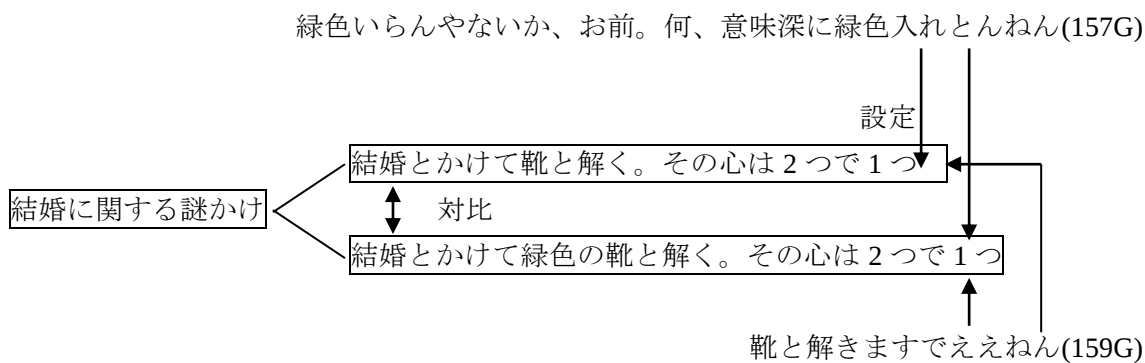
154I 緑色の靴と解きます

155G 緑色の靴と解きます。その心はー？

156I 2つで1つです



だが、後続する 157G のツッコミ「緑色いらんやないか、お前。何、意味深に緑色入れとんねん」によって、概念 B から「緑色」を省いた概念 A が設定され、それによって始めて「おかしみの構造図」が完成する。また、157G は、同時に、概念 B のたしなめも行っている。さらに、次の 159G のツッコミ「靴と解きますでええねん」によってもまた、概念 B のたしなめ、概念 A への言及が同時に行われている。双方の対比が明確になり、「おかしみの構造図」を効果的に伝達している。



以上のように、フリが存在せず、かつ、常識的概念による概念 A の設定が難しい場合は、

ツッコミが概念 A を設定する機能を果たすことがあることがわかった。

5. おわりに

漫才におけるツッコミに関して、従来までほとんど考察がされてこなかったが、安部(2004)の「おかしみの構造図」と、それにおける、フリ、ボケ、ツッコミの各定義を使用した今回の考察により、以下のことが明らかになった。

- ・ツッコミの機能は、「おかしみの構造図」の完成を聴衆に伝達することである。主な方法としては、概念 B のたしなめを行うことである。また、すでに設定されている概念 A にもう一度言及することにより、概念 A と B の対比を明確にするという方法も取られる。
- ・例外的な考察結果ではあるが、フリが存在せず、かつ、常識的概念による概念 A の設定が難しい場合は、ツッコミが概念 A を設定する機能を果たすことがある。

安部(2004)において、おかしい部分のボケだけではなく、ボケに先行するフリにも聴衆におかしさを感じさせ笑わせる機能があることが明らかにされた。さらに、本稿において、ボケに後続するツッコミにも、同様の機能があることが明らかになった。結果として、本稿は、安部(2004)の考察にツッコミに関する考察を加えたことで、漫才の言語学的研究を一步進めるものとなった。

6. 今後の課題

より良い研究方法を探ること、漫才資料を数多く用意すること、さらに、漫才の目的が聴衆を笑わせることである以上、聴衆の笑いを考慮した考察を行うことなどが、今後の課題としてあげられる。

参考文献

- 相羽秋夫 (2001) 『漫才入門百科』 弘文出版
- 安部達雄 (2004) 「笑いということば——漫才における「フリ」のレトリック——」『文体論研究』(50): 104-120
- 木村寛子 (2003) 「おかしみを生む発想について——漫才における表現の展開から——」『早稲田大学大学院文学研究科紀要 第3分冊』49: 91-100
- ショーペンハウアー・アルトゥール (1975) 『意志と表象としての世界』西尾幹二訳、東京：中央公論社
- マーヴィン・ミンスキー (1990) 『心の社会』安西祐一郎訳、東京：産業図書

資料

『オートバックス M-1 グランプリ 2003』 テレビ朝日系列全局 2003 年 12 月 28 日放送